

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2796100069		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター泉ヶ丘 グループホーム ニチイのほほえみ (2階)		
所在地	〒599-8253 大阪府堺市中区深阪713-1		
自己評価作成日	平成25年7月17日	評価結果市町村受理日	平成25年11月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2796100069-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成25年8月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を1日2回申し送り時に唱和している。理念の中に『喜怒哀楽を大切に』というフレーズがあるが、スタッフ間で周知できている。ただ地域との交流は理念には入っていません。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は些細なもののだが、少しずつは増えてきた。『ふれあい喫茶』に出かけたり、近くのグループホームとの交流もスタートした。散歩時には積極的に挨拶を心がけ会話をしている。年1回地域の盆踊りへの参加させてもらっている。2年前から年1度のニチイ祭り地域の子供さんが遊びに来てくれた。時々トイレを借りに来る子供さんもいた。入居者様が近所の人に助けられたこともある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に向けて発信として2年前から年1回行なう『ニチイ祭り』でチラシを町内に配布し少しでもホームの存在を知ってもらうため『相談窓口』を設けている。近隣の方から相談を受けたこともあった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の運営推進会議で報告をしている。問題が生じた場合は貴重な意見をもらい、できる事は実践している。近所で行っているふれあい喫茶も運営推進会議で教えてもらった。また同じ中区内のグループホームの管理者も参加してくれているので情報交換の場にもなっている。今年度から地域の民生委員さんの協力も参加してくれるようになった。今後はスタッフも参加できる勤務体制作りが目標である。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	密な関係には至っていないが、管理者は中区基幹型包括支援センターが主催している地域への認知症の啓蒙活動にできるだけ参加するようにはしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。玄関も施錠していない。ただ夜間はフロア入り口・玄関は施錠している。身体拘束について年1回研修を行なっている。ホームでは身体拘束に関する委員会は作っていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回は虐待についての研修を実施している。暴言・暴力は明らかに分かるが、何気なく言っている些細な言葉でも人を傷付けるので、関わり方も個々に勉強し良い空間環境作りにも力を入れる必要がある。		

ニチイケアセンター泉ヶ丘(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関する研修があれば管理者が参加している。スタッフにも学ぶ機会を与えるのがホームの課題である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	噛み砕いた言葉で説明するようにはしている。途中で質問はないか確認するようにしている。しかしなかなか一度で理解は得ていないと思われる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設けている。また運営推進会議への参加を働きかけているが、なかなか参加につながらないのが現状である。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今年度から環境・行事・食事と各委員会活動に重点を置くようにしている。各委員会活動を通じてできることから実行しているが、スタッフからの提案・意見が少ないのが課題である。スタッフの意見を引き出せるような環境作りが管理者としての目標である。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修への参加が、社内的になかなか認められない。ただ昨年度から同じ中区内のグループホームの交換研修に参加しており、当ホームしか知らないスタッフが多いなか、『他を知る』ことでモチベーションが上がることを期待したい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度から人員不足もあり2ヶ月毎に勉強会をしている。以前は新人研修を3ヶ月間実施していたが人員不足でできなくなった。現在、新人に関しては実際に働きながら伝え、育てる取り組みをしても、当事者が深く心に留めなければ実行できない現状である。外部研修に関しては上記の通りである。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	1年前から認知症の啓蒙活動を中区内のグループホームの管理者としており、活発に交流をしている。空き状況や問題点等も相談できる関係作りができています。『中区グループホーム対抗歌合戦』という行事も2回行ない、第2回目はスタッフも参加した。上記の交換研修にもできるだけ参加していきたい。		

ニチイケアセンター泉ヶ丘(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人・家族様の意見を聞きながら入居してもらっている。『その人を知る』ことに重点を置いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族様にセンター方式を記入してもらっている。家族様は気を遣ってスタッフに言わないこともある。また後から伺うこともある。少しでも満足できるサービスを提供したい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態を把握し、必要に応じて福祉用具を導入するなど対応をしているが、社内的なこともあり迅速的な対応ではない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と一緒に家事をし、家族のように接している。人生経験が豊富なので様々なことを教わっている。入居者様とスタッフで助け合いができていると思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との関係は大事にし、一緒に支えられるように要望があれば添うように努力しているが、完璧ではない。また家族様との関係作りにも時間がかかる場合もある。面会時に近況報告をし、月1回お便りを送っている。(写真も添付)困ったことは家族様にも相談している。また面会時に食事介助をお願いすることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居直後であっても面会の制限はせず、いつでも面会ができるようにしている。お好きな時にご友人・知人が来られる方もいる。馴染みの場所・人の名前を会話に入れるようにしている。認知症が進んでも家族・故郷を忘れないようにしたい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り会話が続くように努めている。その方の性格に合うと思う方を横に座ってもらったり配慮している。入居者様に可能な限り、食事介助や車椅子を押してもらったり介護のお手伝いをしてもらっている。あまり関わり合いが苦手な方は無理には関わってもらっていない。		

ニチイケアセンター泉ヶ丘(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去の際、『近くに来られたらいつでもお立ち寄り下さい』と必ず言葉を添えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式をスタッフ一人ひとりが書き活用している。入居者様がスタッフに遠慮がない関係作りに努めている。『その人を知る』に重点を置いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用している。新たに知り得た情報は追記している。一人ひとりのファイルがありいつでも見れるようにしているが、把握しきれていない。まずは担当入居者様から把握できるように努めている段階である。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様に変化があれば必ず申し送りを行っている。センター方式を見れる状況だが、全員分は把握できていない。まずは担当入居者様から把握できるように努めている段階である。できる事・もうできなくなった事を見極めていくことに努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフが集まり話し合いをしている。ご本人に直接伺うこともある。心の安心が最も大切と考えている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月1回カンファレンスで話し合い、その人に合ったできる事・できない事をしっかり検討している。ケアでよかった点・悪かった点を話し合っている。計画書は皆で作っていくことに重点を置いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	色んな意見・発想をとり入れ柔軟にできることを対応している。		

ニチイケアセンター泉ヶ丘(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	あまりできていない。年に一度のニチイ祭りで地域の方と交流を持ちたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりの話を聞いて下さり、その人に合った医療を柔軟に対応してくれている。人によっては入居前から通院していた病院にも家族様対応で受診を継続している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとっており、毎週月曜日は訪問看護師に来てもらっている。気軽に電話で相談できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いに行っている。退院前はサマリーをもらったり、必要に応じて話し合いをしたりしている。入院に関しては提携医に任せている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期から終末期のことは話し合っていない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で学んだり、資料をもらっている。しかし実際の場になると焦ってしまっていた。日々の勉強の大切さを実感した。定期的な訓練は行っていない。実践力を身に付けたスタッフは少ないように感じる。事故発生時のマニュアルは台所に貼っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月毎に避難訓練を行っている。地域の協力には至っていない。		

ニチイケアセンター泉ヶ丘(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	少し寄り添いすぎているかもしれない。さり気ない対応ををするよう心掛けていますが心配で寄り添っている事が多い。記録はイニシャル表記しスタッフ間で話し合うときもイニシャルで話しするようにしている。排泄確認時は小さい声やジェスチャーで確認する。分かり易いように簡潔に話そうとすると乱暴に聞こえないか心配である。話し方は難しいので、今後も勉強したい。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を聞くように努めている。気候が良い時は近くの公園に行ったり外食をしたり行きたい場所に行けるようにしている。会話の中で出てきた事柄で実現できそうな事は時間を作って実施したいが、人数不足や時間がなくてできない事の方が多い		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どのようにしたいか聞いても『分からない』と答える方が多い。何か希望されたら優先しているが、スタッフの人数が少ないと業務に追われてしまう時もある。スタッフの経験年数・入居者様の希望が多い等で希望通りにはできていない。正直スタッフは時間内に業務を終了できないのが現状である。		
39		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	その人らしい身だしなみは心掛けているが、何枚も重ね着している方は適度な枚数に着替えてもらっている。季節に合った服装を選んでもらう。寝癖がないよう気にかけている。自分で櫛で直せる人はといてもらっている。何を着てよいのか分からないと言う方は一緒に考えてコーディネートしている。必要な人は毎朝ホットタオルで顔を拭いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きは毎日食事前に手伝ってもらっている。目で楽しめように盛り付けの工夫をしている。毎月お食事会・おやつ作りを開き、皆で作って食べれる行事も取り入れている。入居者さんに調理法方・味見をしてもらっている。後片付けも、台所で一緒にできる範囲でもらっている。一緒に包丁を使用して調理することがあまり実行できていない。お一人が好きで居室で召し上がる方もいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスはきちんとできていないかもしれないが、食欲のない時は食べれる物を提供できるよう工夫をしている。夏場の水分補給は特に注意している。夜も水分補給を心がけ、起床時も早めに水分補給をしている。介護記録を確認し水分量を気にかけて提供している。1日の目標は1300～1500ccである。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後はできていないときもある。夕食後は徹底して行なっている。起床時もしっかり行なっている。強く拒否される方もおられアプローチ方法を思案中である。希望者は訪問歯科を利用している。		

ニチイケアセンター泉ヶ丘(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	少し手助けしすぎているかもしれない。排泄の失敗をしないように、その日の状態を見てタイミングよくトイレ誘導をしている。拒否される方にはゆっくり会話をしてタイミングをみて促すようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の少ない方はご本人の好む飲み物を提供したり、夜間覚醒時に提供している。牛乳を飲んでもらう。腹部マッサージも出来る範囲で行なっている。便秘時は下剤を調整している。下剤に頼っているところがある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴中一緒にお好きな歌を唄うようにしている。毎月2日間『お楽しみ入浴』という行事をして、入浴剤やレモン等を入れて楽しんでもらっている。入浴拒否のある方は声かけ方法を検討し入ってもらえるように工夫している。オムツ使用の方はオムツ被れがしやすいので、夏場は毎日でも入ってもらえるようにしたいが時間がない時もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜眠りが浅い日は、日中であってもゆっくり休んでもらうようにしている。夜眠れない人は寝るのを押し付けず、フロアーに来てもらったりもしている。エアコンの調整、眠りやすいように優しい音楽をかける方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用等は難しく理解できていない。ファイルを確認して把握していきたい。服薬時は飲み込むまで見守る。服用忘れミス・吐き出す方がいたりまだまだ課題が残っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の日々の状態に変化があるため難しい面もある。気晴らしに散歩に行く事が多い。食器拭きや盛り付けをスタッフと一緒にできる様に支援を心掛けている。歌を唄うことが好きな方が多いので、歌集を作り歌を良く唄う。各委員会毎に楽しい行事をとり入れ、気分転換を図るように努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の方々と出かけるのは難しく、今後の課題である。気候の良い時期は個別外出で外食に行く事もある。近くの飲食店まで話しながら歩いていく。玄関先で外気に触れるよう配慮している。しかし人数が少ない日は時間が作れない現状もある。目標は1日1回は外気に触れるようにしたい。		

ニチイケアセンター泉ヶ丘(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金の所持はできないが、個人的に家族様の許可を得て、お金を持っている方もいる。お金の入っている財布が手元にあることで安心される。移動パン屋のときに『お金忘れた買ってな』と言うぐらいで、普段あまりお金の話にならない。おもちゃのお金で代用できる方はそれを使用した。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人では難しいので電話を掛ける手伝いをするにはある。電話の後は安心される。手紙を出したいと希望されたらポストに投函している。携帯電話を所持されている方は使用できるように手伝っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が大声を出したり暴言を使う時があり、その際は居場所を変えたり、原因を探るようにしている。季節に応じて貼り絵をしたり飾りをつけたりし季節感をとり入れる工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お好きな場所で過ごしてもらえようリビングとは別に少し離れたところにテーブルや椅子を置きその方の居場所作り(落ち着ける場所)を心掛けている。テーブルや椅子の配置をその都度変更をしている。自由に座ってもらえるようにしている。ただ中には自分の席にこだわる方もいるので、難しいところもある。1階にも自由に行き来でき、1階の仲良しの人と交流をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の心が穏やかになるもの『人形』『本』等は見える所に配置している。物の認識が理解出来ない方はシンプルにしている。なるべく危険につながらないような物を持ってきてもらうように配慮している。安全のために家具の配置替えることもある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	『トイレに行きましょう』『お風呂に入りましょう』といったプレートを作り、ご本人が気兼ねなくできるように工夫している。また『今日は〇〇の日』と誰でも分かるように壁に貼ったり工夫している。テーブルの配置を変更し車椅子が楽に通ることができるスペースを作っている。居室には手作りの表札を貼りその人の写真を横に付けて分かりやすいようにしている。危険箇所には大きな字で張り紙をしている。		